

れんよういん
蓮葉院

1574 年に開かれたお寺。1708 年に桐生市のお寺のお坊さんが東毛地区各地にあるお寺の中から「東上州三十三観音霊場」を選び、その第7番として、このお寺が選ばれました。



左の写真の石像がこの境内で一番大事にされているようなので、これが「聖観世音菩薩」なのかな。でも、個人的には、下の写真の石像に価値を感じてしまいます。それは、向かって右側に「延寶元年」（1673年）と彫られており、ここが「東上州三十三観音霊場」に選ばれるより前から立っていた石像だからです。今は顔が削れてしまっていますが当時はきっと良い顔が見えていたと思います。



このお寺には、ほかにも見どころがいくつもありました。



千手観音



青面金剛（しょうめんこんごう）

青面金剛（しょうめんこんごう）とは

60日ごとにめぐってくる庚申（こうしん）の日の夜に、人の体内に^す住んでいる三尸（さんし）という虫がその人の体から^ぬ抜け出して、その人の^{わる}やった悪いことを^{かみさま}点の神様に伝える。すると、その人は長生きできなくなる、という言い伝えがあります。それを防ぐために、人々は庚申の日の夜にはみんなで^{あつ}集まってねないように^{たが}お互いに声をかけあいました。また、右上の^{しやしん}写真のような「庚申塔」を立てて、^{こうしんとう}守ってもらおうとしました。そこによく^{めんこんごう}ほられていた神様が「青面金剛」です。この神様、実は^{かみさま}病気を^{じつ}流行させる鬼神で、体は青色、二本、四本または六本の腕があり、それぞれの腕に武器を持ち、^{うで}かみの毛はさか立ち、体にへびを^{おに}まとい、足に^ふ鬼を踏んでいる、というおそろしい^{すがた}姿をしています。その神をまつることによって、^{ぎやく}逆に^{びようき}病気を^{ふせ}防ぎ、^{さんし}三尸（さんし）という虫も^{かつどう}活動できなくさせようと人々は考えたのです。

なお、青面金剛（しょうめんこんごう）の下には、よく三ザルがほられていますが、これも三尸（さんし）という虫に、「人の悪事（あくじ）を見ず、聞かず、話さないことが大事だよ」と教えているという説があります。

千手観音とは

千本もの^{かん}たくさんの手を持った^{のん}観音様です。千本の手は、どのような人々をも^{たす}助けようとする、^{かん}観音様の^{やさ}優しさと力の大きさを表しています。人々を助けるために、その手に^{たす}は^{ぶき}たくさんの武器や^{ぶつきよう}仏教で^{つか}使う^{どうぐ}道具を持っています。

「おみち地蔵」 とは

これは、1926(大正 15)年になくなった川島^{かわしま}みち^{じょう}という助産師^{じょさん}(出^{しゅつ}産^{さん}のお手伝い^{てつだ}をする人)をまつったものです。川島みちさんは、もうすぐ死のうとしているそのときに、
「私^{わたし}をまつれば、(ここに来る妊婦^{にんぶ}はみな)安産^{あんさん}となり、病人^{びょうにん}はみな病^{びょう}氣^きが治^{なお}る」と言い残^{のこ}しました。それを聞いた人たちが、この地蔵^{じぞう}を作ったそうです。



おみち地蔵

動物もすごく大事^{だいじ}にしている…

どちらも食用^{じょうぶつ}となった生き物^{いのち}たちの霊^{れい}をなぐさめるために立てられたものです。人間は生きるために動物の命^{いのち}もいただきます。それ^{たい}に対して「ごめんね」という気持ちと「ありがたくいただきます」という気持ち^{きもち}を昔^{むかし}の渡瀬^{わたせ}村民^{そんみん}も持っていたのですね。そうそう、この地区^{ちく}には、田畑^{はた}を耕^{たがや}したり、物を運ぶ^{はこ}ためにがんばってくれた馬^{うま}の霊^{れい}をなぐさめるための「馬頭観音^{めずかんのん}」もたくさん立てられています。ますます、この地^{まち}の人々の優^{やさ}しさを感じますね。



畜魂碑と鳥供養塔